

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
「ひびきあう心 輝く笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」	
(知) 進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組むようにします。 (徳) 豊かな関わりを通して、思いやりの心をもち、自分も人も大切にできるようにします。 (体) 運動や体力づくりを通して、心身ともに健やかに生活するようにします。 (公) 進んで人とつながり、地域や社会の一員としての自覚をもつようにします。 (開) 様々な人との関わりを通して、多様な考えにふれ、共生する力を育むようにします。	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<自分づくりに関する力>	具体化した資質・能力 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○様々な情報を活用・選択する力 ○伝え合うことで自分の考えを深化させる力

中期取組目標
・子どもの思いを大切に受け止めながら、「一人ひとりの子どもの心に配慮した学校づくり」を行っていきます。 ・いじめの未然防止、また一方で、いじめが生じても迅速に組織的対応が取れる校内体制の構築を図っていきます。 ・主体的に学習に取り組める子どもの育成を目指し、対話的で深い学びのできる授業づくりを行っていきます。 ・心身ともに健康な子どもの育成、また「道德」の時間を活用しながら、他者を思いやることのできる豊かな心の育成を図ります。 ・学校運営協議会での議論を主軸としながら、保護者や学校地域に開かれた学校運営を行っていきます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	①学習マークやデジタルタイマー、ミニ黒板などを活用し、ユニバーサルデザインの授業を行い、どの子も基礎・基本をしっかりと定着できるようにする。タブレットなどのICT機器を活用して効率的に学習を進める。②資質能力を高めるための指導と評価の一体化を図りながら授業づくり、改善を行っていく。③重点研究では、「主体的に学習に取り組める子どもの育成」を研究主題とし、教職員全員で授業を見合い、授業の進め方を話し合い、研究し、授業に生かしていく。
担当	重点研究推進委員会

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
1) 学力の概要と要因の分析 毎年概ね学習意識・生活意識は、市平均より高い水準を保っている。本校では、学習・生活習慣ともに高い家庭・児童が多い。 (2) 調査結果より ○国語科では、「好き」と答えている児童が80%以上、「大切だと思う」は97%と、学習へ意欲的に取り組んでいる様子がわかる。「基礎」は、市平均を大きく上回っているが、「活用」に課題がある。 ○算数科では、「意欲」の面がとて高い。「基礎」「活用」とも市平均よりも高い。 ○社会科では、「基礎」「活用」とも市の平均よりもかなり高い学力が身につけている。また、学習に向かう態度もよく、自主的に本やインタビューをして調べたり、考えたことを発信したりしている児童が多い。 ○理科では、「基礎」「活用」とも市平均以上の学力が身につけていて、特に活用の力が高い。実験や観察が好きという児童が全体の94%と、多い。 ○学習意識調査からはどの教科も意識が高いことがわかる。一方で、家庭科と体力に関する意識が市平均よりも低い実態もある。 ○生活実態調査では、パソコン(タブレット型も含む)や携帯電話を1時間以上見ている児童が51%と、市平均よりも多い。 ◎どの学年も市の平均並かやや上の学力がついている。これまで本校が大切にしてきた授業のユニバーサルデザインを継続しながらも、主体的・対話的で深い学習に取り組んでいく。さらに、カリキュラム・マネジメントの推進を進めながら、質の高い学びを実現し「学びに向かう力、人間性・知識及び技能・思考力、判断力、表現力など」の三つの力をバランスよく育んでいきたい。	進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組む子の育成。教科横断的な視点さらに、主体的・対話的で深い学びができるような授業づくりを推進し、PDCAをどの教科・領域においても循環させながら、質の高い学びを実現し確かな学力を育てていく。
	目標を実現するための具体的行動プラン
上半期 ○「自ら課題を見いだして取り組む力」 ・学習の基盤となる「言葉の力」を、全教育課程で言語活動の充実を図りながら育む。 ・どの教科でも主体的に問題を発見したくなる課題を設定し、問題を発見する力を高める。 ・国語を要として、教科横断的に児童の言葉の力を育てる。 ・日常生活等から、問題を見出す行動や見通しをもった観察・実験などの充実によりさらに学習の質を向上していく。 ○「主体的に取り組む態度」 ・学習過程で友達との対話を通して、共に考え学び合える授業を行う。 ・学んだことを他の教科や日常生活、人生や社会に生かそうとする力を養う。 ・確実な計算力や語彙力をつけるため、進度に合わせた練習だけではなく、一人ひとりの苦手な部分等についても反復して練習する時間をつくる。	上半期で記述したことを下半期でも取り組んでいく。(年間通して取り組んでいく)
下半期	上半期で記述したことを下半期でも取り組んでいく。(年間通して取り組んでいく)

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道德教育	①学校や地域で、自ら進んで気持ちのよい挨拶ができるようにしていく。また、SSTの視点を取り入れた指導を積み重ねることで、思いやりの心を育み、自己を大切にしていこうとする態度を育て、道徳的な判断力を養っていく。 ②年間を通した異学年交流を行い、ねらいを明確にした全校遠足など縦割り(ふれあいグループ)での活動を行うことによって実践意欲と態度などの道徳性を養っていく。
担当	道德部

豊かな心に関わる本校の状況
本校児童は、全体的に穏やかで、素直に何事にも一生懸命取り組むことができる。ほとんどの学年が単級で6年間過ごすためお互いのことをよく理解し優しい声かけをすることができる。また他学年との関りも多く特にペア学年と様々な行事を通してお互いを思いやって過ごすことができる。小規模校のため、どの児童も一人一役を担い、行事の際にはどの学年でも、意欲的に自分の役割を果たそうとしている。 一方で、友達と上手に触れ合っていないという気持ちのあまり、自分の考えを表に出すのをためらってしまったり、自分らしさを抑えてしまったりするなどの傾向もみられる。

今年度の目標	
心身ともに健康な子どもの育成、そして道德の時間を中心にして、他を思いやる豊かな心の育成を図る。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 【道德教育】道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じた道徳教育 ○道徳科において児童・生徒がより多面的・多角的な見方へと発展させられるようにする。 ○道徳科において児童生徒が道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、考えを深められるようにする。 【体験活動の充実】 ○年間を通して気持ちのよい挨拶ができるように、クラス・ふれあいグループの始まる時には自己紹介をしいお互いのことをもって理解できるようにする。校門に立っている職員や廊下ですれ違う職員に自分から挨拶ができるよう計画委員が計画した振り返りカードを活用する。 ○6年生を中心とした縦割りグループ(ふれあいグループ)を作り全校遠足・集会を行っていく。集会は、輪番で各学年が計画するなど、リーダーシップと共に、サポートしていく気持ちも育てていく。	下半期 【体験活動の充実2】 ○引き続きふれあいグループでの活動を深めていく。特に丘リンピックでは、ふれあい長縄にとりくみ、お互いを思いやって一つの活動に取り組んだりそれぞれの学年に任された仕事を責任をもってなしとげられるようにする。また地域の方も参加できるような内容を組み込んでいく。日々の学習でも、地域材や地域の教育ボランティアを活用していく。 【確かな人権感覚・意識の育成】 ○Y-Pアセスメントを含む子どもの社会的スキル横浜プログラムを計画的に活動し、学級や子ども個人の課題を把握し、全教職員で「誰もが安心して豊かに」過ごせる学級風土づくりを目指していく。 ○支援が必要な子どもに対して、個別的教育支援計画や指導計画を作成し、全教職員で、身につけたい力や指導の仕方などについて共通理解を図っていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	・健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ・心身の健康な生活を実践する態度を育む。 ・家庭や地域と連携し、スピードと持久力の向上に重点を置いた取組を実施する。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況
(1) 健やかな体に関わる児童の実態 ・令和3年度の市の平均と比べると、朝食の摂取率がとても高い。また、睡眠時間も多いため分かる。 ・令和3年度の市の平均と比べると、一日の運動時間が少ないことが分かる。 ・令和3年度の市の平均と比べると、50m走と20mシャトルランが極めて低いことが分かる。 ⇒スピード、持久力を高めていくことが今後の課題である。 (2) これまでの学校の取組状況 体力テストの結果を分析していたが、足りない力にフォーカスした運動はしていない。日常的な運動のきっかけになるように、一校一実践運動で体育朝会(ラジオ体操、リズムジャンプ、ベース走)、体育集会(斎藤分ストレッチ、大縄跳び)に取り組んだ。リズムジャンプやベース走は、休み時間にも取り組んだ。今年度からは、スピードや持久力を高めるための運動を意図的に取り入れていく。

今年度の目標	
①今年度、来年度、再来年度・・・と、体力テストの50m走と20mシャトルランの平均が前の年を上回る。 ②健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 ③心身の健康な生活を実践する態度を育む。	
目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ①今年度、来年度、再来年度・・・と、体力テストの50m走と20mシャトルランの平均が前の年を上回る。 (1) 体育朝会や体育集会で、持久力の向上に重点を置いた活動を十分に実施する。 (2) 鬼ごっこ系など短距離を速く走る運動や遊びを休み時間などにたくさん行えるよう、各クラスに推進する。(クラス遊びカードの配布、体育委員会からの声かけ) ※スピードに重点を置いた活動や遊びを、体育朝会などの全校で行うことは難しい。 (3) 体育協会など専門家と連携する。 ②健康な生活を実践する態度、自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。 (1) 児童が運動の楽しさや喜びを味わい、運動の日常化につなげられるよう、対話による課題解決や学習資料の活用等を実践し、体育科学習の充実を図る。 (2) 教職員の体育実技・安全研修を行い、体育科学習の充実を図る。 ③心身の健康な生活を実践する態度を育む。 「節度、節制」の重視による「自立を意識して自分の生活を見直し、節度を守り、節制を心がける」態度の育成を目指した道徳づくり。	下半期 上半期で記述したことを下半期でも取り組んでいく。(年間通して取り組んでいく)